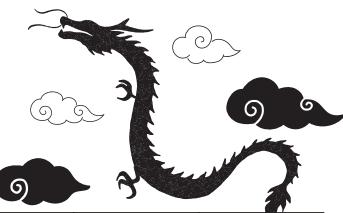


# スコーレ映画サロンのお知らせ vol.281



◆日 時：2024年1月14日(日) 14:00～18:00

◆会 場：名古屋国鉄会館

(わからない方は10分前にスコーレに集合またはお問い合わせください)

※映画サロンは禁酒禁煙です。

◆参加費：1000円(初参加の方は無料です)

## 課題映画

### △ほかげ

(12/16よりシネマスコーレにて公開)

### △PERFECT DAYS

(12/22よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)

## サロンメモ

近頃、映画の評価を単純な言葉や数字で表わす事は難しいとつくづく思っている。例えば「首」の点取り。北野武の作品を全部観ている人、初めて観る人、芸人・ピートたけしをよく知っている人、全く知らない人。同じ点数でも中身はかなり違う。ただそうなると、そもそも各人の教養や経験の差は…という話にもなるので、ここは割り切るしかない。いや、これまで割り切ってきたか。

ただそんなによくある事ではないが、観る人が多少なりともその映画に関わりのある場合はもう少し複雑だ。映画批評家が当該映画に関与していたり、訪問した撮影現場で苦労を目の当たりにした場合、その批評や評論が純粋なものになるのか、というのは以前からずっと思っていた。

そこで「青春ジャック」だ。スコーレ映画サロン。程度の差こそあれスコーレに縁が出来た映画好きの集まり。自分が知っている人や場所、空間がたくさん出て来る映画。一般的な映画を評価する尺度とは異なる要素がいっぱいある。忖度とはまた違う。親近感がある。過去を思い出す、応援したい。出来不出来や好き嫌いが中心となる他の映画とは評価の尺度が変わるのは必然だろう。これは個人的想像だが、本来の点よりプラス1点という人も結構いたのではないか。プロの映画批評家が鋭いのは違い、アマチュアの映画好きの評価表明だ。そこは自然であり、スコーレ映画サロンの評価だから高めか、と苦笑する人もいるはずだ。単純な数字はかのように厄介と言える。

では言葉はどうか。2023年のワーストに「月」を考えている。ただし立派な失敗作、称讃したいガッカリ作といった素晴らしいワーストとして。しかしワースト作品という言葉だけを提示された時、ただ酷い映画、出来損ないの映画とのイメージしか恐らく喚起されない。昨年の「月の満ち欠け」はただただ酷い映画だったが、それとは全く違う。まさに並べて欲しくないのだ。単純な言葉も相当に厄介だ。

単純な言葉や数字の真意を説明するのは難しいし面倒くさい。しかしそれらを説明する場があれば、その面倒くささは一転楽しく有意義な面も持つ。自分や自分たちの映画評価も本当はそう単純なものではない。(小西)

初めて参加される方は参加費無料！ 10分前にシネマスコーレまでお越しください。

12/17(日) サロン参加者	首	俺 止 め ら れ る か、 青 春 ジャ ック を2 つ た ち	正 欲	ナ ボ レ オ ン	NO 「 選 挙 」 正 義 を 殺 す の は 誰 ?	市 子	法 廷 遊 戯	私はモーリー・カンガー
天野 雄喜	3	4	5	4			4	4
高橋 広河	4	4	4	3				
井上 章	3	4	5	4		5		
三田 正継	5	4	5		3	5	2	4
山本 正明	3	5	3	4		3	4	3
岡村 昌俊	4	4	4		4			3
加藤 賢二	3	4						
白石 麻由子	5	5	5					4
榎原 隆裕	5	5	5					
横井 清	3	5	4	4			4	
牧野 鐘徳	5	4	5	3		4	3	
斎藤 文彦	5	5						
加藤 千穂子	3	5						
近藤 生久子		4						
小西 孝直 (スコーレサロン代表)	5	4	5		5	4		4
坪井 篤史 (スコーレ支配人)	5	3	5	4	5		3	
木全 純治 (スコーレ代表)	3	5	4		4			